

IKUKYU.PJT

日本全国の育休実態を徹底調査!
47都道府県の20代～50代のパパ・ママ9400人に聞く



イクメン白書 2019

イクメン力が高いイクメン県は「島根県」

5項目中3項目で1位を独占

20代の平成世代は「イクメン」意識が昭和世代の約2倍に



SEKISUI HOUSE

日本でも男性の育児休業取得が 当たり前になる社会へ

子育てを応援する社会を先導する
「キッズ・ファースト企業」として、
積水ハウスグループは
「男性社員1カ月以上の育児休業完全取得」を
推進しています。

「わが家」を世界一 幸せな場所にする

住まいを通じた幸せを提案する
住宅メーカーとして
人間性豊かな住まいと環境づくりを
進めていきます。

積水ハウス株式会社は、子育てを応援する社会を先導する「キッズ・ファースト企業」として、ダイバーシティ推進の取り組みを一層加速させるため、2018年9月より「男性社員1カ月以上の育児休業（イクメン休業）完全取得」を推進しています。今回、企業で働く男性の育休取得実態を探るべく、全国の小学生以下の子どもを持つ20代～50代の男女9400人を対象とした調査を実施しました。当社の「イクメン休業」取得者へのアンケート結果とともにご紹介します。

CONTENTS

- P.02 CONCEPT
- P.04 発表! イクメン力全国ランキング
- P.06 イクメン力の都道府県ランキング
- P.11 統計と県民性に見るイクメン力
(リサーチ・プロデューサー 木原誠太郎)
- P.12 イクメン意識の実態
- P.16 育休取得の実態
- P.18 男性の育休取得に対する意見
- P.20 育休を取得した夫の意見
- P.22 育休を取得しなかった夫の意見
日本の育休制度の実態
- P.25 イクメン白書で浮かび上がる今どきの「イクメン」
(ジャーナリスト 治部れんげ)
- P.26 積水ハウスの「イクメン休業白書」

調査概要

- 実施時期 2019年7月17日(水)～7月24日(水)
- 調査手法 インターネット調査
- 調査対象 全国47都道府県の小学生以下の子どもがいる20代～50代の男女9400人
人口動態に基づきウエイトバック集計

*構成比(%)は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%にならない場合があります。

発表！イクメン力 全国ランキング

積水ハウスが独自設定した 男性の「イクメン力」を決める4つの指標

積水ハウスでは、右記の4つを男性のイクメン力の指標として設定しました。1つめは配偶者からの評価で、夫が行っている家事・育児の数と、夫はイクメンだと思うか（4段階評価）の2項目です。2つめは育休の取得経験で、取得日数が基準となります。3つめは、夫の家事・育児を行う時間で、夫の自己申告ではなく妻から見た夫の家事・育児時間を基準とします。4つめは夫本人に家事・育児に幸せを感じているかどうかを4段階で聞き、本人の幸福度を基準とします。これら5項目4指標をそれぞれ数値化して、47都道府県別にランキングし、1位に47点を付与、47位には1点を付与し、各項目の点数を足し上げることで、各都道府県のイクメン力を算出しました。

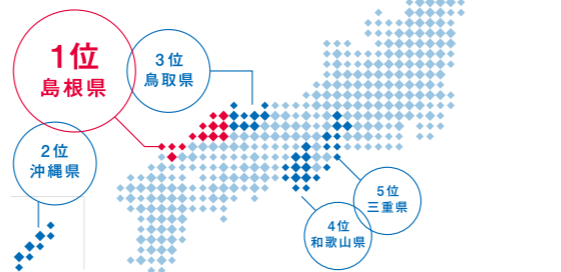
「イクメン力」の基準となる 4つの指標



日本一のイクメン県は「島根県」で唯一の200点超え 家事・育児数や家事・育児時間など妻からの評価も高め

1	島根県	第1位	205点
	夫が行っている家事・育児の数	1位	7.91個
	夫はイクメンだと思うか	1位	0.65
	育休取得平均日数	28位	1.91日
	家事・育児時間(週平均)	1位	18.21時間/週
	家事・育児への幸福度	4位	1.06
2	沖縄県	第2位	194点
	夫が行っている家事・育児の数	2位	7.20個
	夫はイクメンだと思うか	9位	0.13
	育休取得平均日数	5位	4.52日
	家事・育児時間(週平均)	7位	13.14時間/週
	家事・育児への幸福度	23位	0.89
3	鳥取県	第3位	180点
	夫が行っている家事・育児の数	3位	6.82個
	夫はイクメンだと思うか	7位	0.15
	育休取得平均日数	9位	3.69日
	家事・育児時間(週平均)	4位	13.50時間/週
	家事・育児への幸福度	37位	0.76

イクメン力が最も高い全国一のイクメン県は「島根県」で、総合得点は235点満点中205点と唯一の200点超えです。次いで2位「沖縄県」194点、3位「鳥取県」180点、4位「和歌山県」179点、5位「三重県」177点と続き、上位は西日本エリアが多くなりました [図 1]。



都道府県別イクメン力一覽

都道府県	指標①：配偶者の評価		指標②：育休取得経験		指標③：家事・育児時間		指標④：家事・育児参加による幸福度		総合スコア			
	①-1 夫が行っている家事・育児の数	①-2 夫はイクメンだと思うか	夫の育休取得平均日数	夫が1週間に家事・育児を行っている時間	夫の家事・育児への幸福度	総合点	ランキング					
1 北海道	5.10	37	0.02	24	2.25	27	12.01	25	0.96	15	112	25位
2 青森県	5.52	29	-0.26	44	3.59	12	12.11	22	0.70	43	90	33位
3 岩手県	6.11	10	-0.13	38	0.33	47	11.87	26	0.69	45	74	43位
4 宮城県	5.34	32	0.12	12	2.80	16	12.32	21	1.07	3	156	9位
5 秋田県	5.67	24	0.10	13	3.30	13	12.41	17	0.70	44	129	21位
6 山形県	5.75	20	-0.08	35	2.78	17	13.59	3	1.02	8	157	8位
7 福島県	6.35	7	0.04	19	2.35	26	11.74	28	0.82	30	130	20位
8 茨城県	5.33	33	-0.15	40	1.58	30	11.74	27	0.95	16	94	31位
9 栃木県	6.21	9	-0.04	32	2.69	18	12.52	16	0.90	19	146	17位
10 群馬県	5.53	28	0.05	18	2.97	15	11.37	30	1.13	1	148	14位
11 埼玉県	6.25	8	0.08	14	1.19	32	12.80	11	0.77	36	139	19位
12 千葉県	4.97	40	-0.23	42	2.64	21	10.65	36	0.96	12	89	34位
13 東京都	4.32	47	-0.09	36	2.40	24	8.61	46	1.05	5	82	38位
14 神奈川県	6.55	5	0.14	8	0.94	36	11.35	31	1.00	10	150	12位
15 新潟県	6.48	6	0.16	6	1.18	33	12.38	19	0.78	34	142	18位
16 富山県	5.44	30	-0.02	29	2.61	22	8.99	45	0.80	32	82	38位
17 石川県	5.72	22	-0.27	46	2.68	20	9.06	43	0.73	41	68	46位
18 福井県	5.88	15	0.03	20	3.29	14	14.00	2	0.78	35	154	11位
19 山梨県	5.79	19	0.08	15	2.40	25	12.11	23	1.01	9	149	13位
20 長野県	5.81	16	0.06	16	6.02	3	10.82	35	0.96	14	156	9位
21 岐阜県	4.76	42	-0.04	31	0.50	44	10.84	34	1.02	7	82	40位
22 静岡県	4.58	46	0.02	23	0.82	40	11.17	33	0.91	18	80	41位
23 愛知県	5.12	36	0.02	22	1.04	35	10.00	40	0.76	38	69	45位
24 三重県	6.61	4	0.23	3	4.52	4	12.87	10	0.72	42	177	5位
25 滋賀県	5.20	34	0.13	10	1.90	29	9.94	41	0.85	26	100	28位
26 京都府	4.98	39	0.06	17	0.86	38	9.15	42	0.90	21	83	37位
27 大阪府	4.75	43	-0.27	45	4.05	7	10.00	39	0.90	20	86	35位
28 兵庫県	5.93	13	-0.01	26	7.48	2	12.99	9	0.84	29	161	7位
29 奈良県	5.39	31	0.03	21	2.40	23	12.08	24	0.75	39	102	27位
30 和歌山県	5.80	17	0.26	2	9.52	1	12.62	14	0.85	27	179	4位
31 鳥取県	6.82	3	0.15	7	3.69	9	13.50	4	0.76	37	180	3位
32 島根県	7.91	1	0.65	1	1.91	28	18.21	1	1.06	4	205	1位
33 岡山県	5.96	12	0.17	5	0.74	42	13.49	5	0.84	28	148	14位
34 広島県	4.67	44	-0.43	47	0.83	39	8.16	47	0.68	46	17	47位
35 山口県	5.15	35	-0.06	34	0.75	41	12.67	13	0.75	40	77	42位
36 徳島県	5.57	27	-0.02	27	1.18	34	13.13	8	0.66	47	97	30位
37 香川県	4.62	45	0.01	25	4.03	8	10.55	37	0.96	13	112	25位
38 愛媛県	5.73	21	-0.12	37	0.44	45	11.18	32	0.79	33	72	44位
39 高知県	5.97	11	-0.05	33	3.64	11	11.64	29	0.82	31	125	23位
40 福岡県	5.57	26	-0.13	39	1.38	31	9.05	44	1.09	2	98	29位
41 佐賀県	5.07	38	-0.25	43	0.73	43	12.55	15	0.95	17	84	36位
42 長崎県	5.80	18	-0.02	28	4.08	6	10.10	38	0.88	24	126	22位
43 熊本県	5.67	23	0.12	11	0.44	46	13.22	6	1.05	6	148	14位
44 大分県	4.86	41	-0.16	41	2.69	19	12.33	20	0.87	25	94	31位
45 宮崎県	5.91	14	0.19	4	3.67	10	12.39	18	0.89	22	172	6位
46 鹿児島県	5.66	25	-0.02	30	0.88	37	12.69	12	0.97	11	125	23位
47 沖縄県	7.20	2	0.13	9	4.52	5	13.14	7	0.89	23	194	2位
全国平均	5.44		-0.03		2.36		11.06		0.91			

*ウエイト平均とは：選択肢ごとに、回答の重みづけを行った集計方法を表しています。(あてはまる+2p、ややあてはまる+1p等)

指標別5項目 **イクメン力**の都道府県ランキング

指標 1-1 夫の家事・育児実践数TOP3は「島根県」「沖縄県」「鳥取県」

イクメン力を構成する4つの指標別に見てみます。まず、食事作りからゴミ出し、子どもの看病など29項目をあげ、配偶者(妻)に夫が普段行っている家事・育児を選んでもらった結果、夫の家事・育児の実践数が多いのは、「島根県」(7.91個)、「沖縄県」(7.20個)、「鳥取県」(6.82個)の順でした[図2]。働いている夫が帰宅する時間を聞くと、[参考値①]の通り、鳥取県は18時までに帰宅する夫が44.2%(全国4位)と多いことから、家事・育児の時間が、協力的なのかもしれません。ちなみに夫が実施する家事・育児は[参考値②]の順で、「子どもとの遊び」(60.0%)、「ゴミ出し」(57.1%)、「子どもの入浴」(46.0%)の順で、子どもとはよく遊んでくれるようですが、「子どものPTAへの出席」(4.0%)、「子どもの学校で必要なものの購入」(3.4%)などはまだまだ夫が行う家庭は少ないようです。

[図2] 妻が評価する、夫の普段の家事・育児実践数
対象は女性 (n=5048)

順位	実践数(個)	順位	実践数(個)	順位	実践数(個)	順位	実践数(個)
1位	島根県 7.91	13位	兵庫県 5.93	25位	鹿児島県 5.66	37位	北海道 5.10
2位	沖縄県 7.20	14位	宮崎県 5.91	26位	福岡県 5.57	38位	佐賀県 5.07
3位	鳥取県 6.82	15位	福井県 5.88		徳島県 5.57	39位	京都府 4.98
4位	三重県 6.61	16位	長野県 5.81	28位	群馬県 5.53	40位	千葉県 4.97
5位	神奈川県 6.55	17位	和歌山県 5.80	29位	青森県 5.52	41位	大分県 4.86
6位	新潟県 6.48		長崎県 5.80	30位	富山県 5.44	42位	岐阜県 4.76
7位	福島県 6.35	19位	山梨県 5.79	31位	奈良県 5.39	43位	大阪府 4.75
8位	埼玉県 6.25	20位	山形県 5.75	32位	宮城県 5.34	44位	広島県 4.67
9位	栃木県 6.21	21位	愛媛県 5.73	33位	茨城県 5.33	45位	香川県 4.62
10位	岩手県 6.11	22位	石川県 5.72	34位	滋賀県 5.20	46位	静岡県 4.58
11位	高知県 5.97	23位	熊本県 5.67	35位	山口県 5.15	47位	東京都 4.32
12位	岡山県 5.96		秋田県 5.67	36位	愛知県 5.12		全国平均 5.44

[参考値①] 18時までに帰宅する夫TOP10
対象は女性 (n=5048)

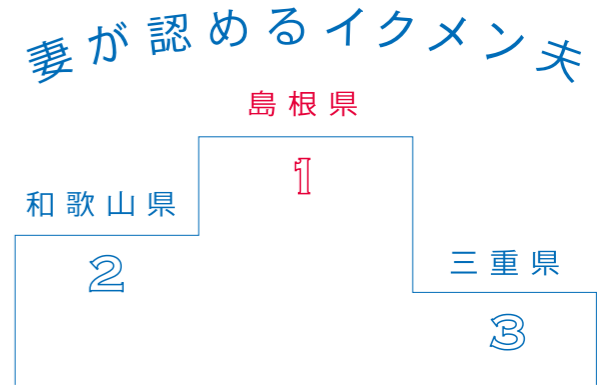
順位		%
1位	青森県	53.8
2位	宮崎県	51.7
3位	秋田県	48.9
4位	鳥取県	44.2
5位	山形県	44.0
6位	島根県	42.0
7位	愛媛県	41.9
8位	福島県	40.5
9位	高知県	39.8
10位	福井県	39.3
	全国平均	29.0

[参考値②] 夫が普段行う家事・育児TOP10
対象は女性 (n=5048)

順位		%
1位	子どもとの遊び	60.0
2位	ゴミ出し	57.1
3位	子どもの入浴	46.0
4位	食事後の片付け・洗い物	30.9
5位	子どものおむつ交換、トイレ付き添い	26.4
6位	子どもの歯磨き	25.7
7位	水回りの掃除(トイレ・お風呂・キッチンなど)	23.6
8位	食料品・生活用品の買い物	23.2
9位	子どもの寝かしつけ、起こす	21.6
10位	家計・資産(住宅ローンや投資など)の管理	21.3

指標 1-2 妻が認めるイクメン夫TOP3は「島根県」「和歌山県」「三重県」

妻に夫がイクメンと思うか、「とてもそう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「まったく思わない」の4段階で聞き、それぞれ+2点、+1点、-1点、-2点で点数化しました。その結果、妻が認めるイクメン夫は、1位「島根県」(0.65)、2位「和歌山県」(0.26)、3位「三重県」(0.23)の順となりました[図3]。



[図3] 妻が評価する、夫のイクメン度
対象は女性 (n=5048)

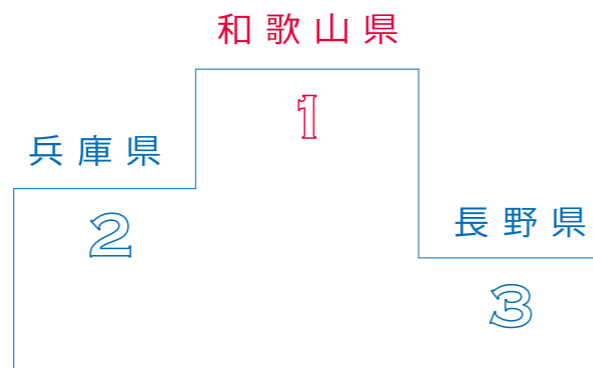
順位	イクメン度	順位	イクメン度	順位	イクメン度	順位	イクメン度
1位	島根県 0.65	13位	秋田県 0.10	25位	香川県 0.01	37位	愛媛県 -0.12
2位	和歌山県 0.26	14位	埼玉県 0.08	26位	兵庫県 -0.01	38位	岩手県 -0.13
3位	三重県 0.23		山梨県 0.08	27位	徳島県 -0.02		福岡県 -0.13
4位	宮崎県 0.19	16位	長野県 0.06		長崎県 -0.02	40位	茨城県 -0.15
5位	岡山県 0.17		京都府 0.06		富山県 -0.02	41位	大分県 -0.16
6位	新潟県 0.16	18位	群馬県 0.05		鹿児島県 -0.02	42位	千葉県 -0.23
7位	鳥取県 0.15	19位	福島県 0.04	31位	岐阜県 -0.04	43位	佐賀県 -0.25
8位	神奈川県 0.14	20位	福井県 0.03		栃木県 -0.04	44位	青森県 -0.26
9位	沖縄県 0.13		奈良県 0.03	33位	高知県 -0.05	45位	大阪府 -0.27
			滋賀県 0.13	34位	山口県 -0.06		石川県 -0.27
11位	熊本県 0.12	22位	愛知県 0.02	35位	山形県 -0.08	47位	広島県 -0.43
			静岡県 0.02	36位	東京都 -0.09		全国平均 -0.03
			北海道 0.02				



指標 2 育児休業取得日数 TOP 3
 「和歌山県」「兵庫県」「長野県」、
 平均取得日数は 2.36 日、
 取得率は 9.6% にとどまる

夫が取得した育休日数を聞くと [図 4] の通り、「和歌山県」9.52 日、「兵庫県」7.48 日、「長野県」6.02 日となりました。「取得していない」は 0 日としてカウントしましたが、全体の 90.4% が「取得していない」と答えており、1 位の和歌山県でさえ、夫の育休取得率は 11.2% と低くなっています [参考値 ③]。日本はまだまだ男性の育休取得が進んでいないと言えます。

育休取得日数



[図 4] 夫の育児休業取得日数
 対象は全体 (n=9400)

順位	都道府県	育休取得日 (日)	順位	都道府県	育休取得日 (日)	順位	都道府県	育休取得日 (日)	順位	都道府県	育休取得日 (日)
1	和歌山県	9.52	13	秋田県	3.30	25	山梨県	2.40	37	鹿児島県	0.88
2	兵庫県	7.48	14	福井県	3.29	26	福島県	2.35	38	京都府	0.86
3	長野県	6.02	15	群馬県	2.97	27	北海道	2.25	39	広島県	0.83
4	三重県	4.52	16	宮城県	2.80	28	島根県	1.91	40	静岡県	0.82
	沖縄県	4.52	17	山形県	2.78	29	滋賀県	1.90	41	山口県	0.75
6	長崎県	4.08	18	栃木県	2.69	30	茨城県	1.58	42	岡山県	0.74
7	大阪府	4.05		大分県	2.69	31	福岡県	1.38	43	佐賀県	0.73
8	香川県	4.03	20	石川県	2.68	32	埼玉県	1.19	44	岐阜県	0.50
9	鳥取県	3.69	21	千葉県	2.64	33	新潟県	1.18	45	愛媛県	0.44
10	宮崎県	3.67	22	富山県	2.61		徳島県	1.18		熊本県	0.44
11	高知県	3.64	23	奈良県	2.40	35	愛知県	1.04	47	岩手県	0.33
12	青森県	3.59		東京都	2.40	36	神奈川県	0.94		全国平均	2.36

[参考値 ③] 夫の育児休業取得率
 対象は全体 (n=9400)

順位	都道府県	育休取得率 (%)	順位	都道府県	育休取得率 (%)	順位	都道府県	育休取得率 (%)	順位	都道府県	育休取得率 (%)
1	長崎県	13.8	5	鳥取県	12.0	9	三重県	10.9	13	栃木県	10.2
2	島根県	13.2	6	兵庫県	11.4		京都府	10.9		沖縄県	10.2
	茨城県	13.2	7	和歌山県	11.2	11	青森県	10.4	15	宮城県	10.0
4	東京都	12.9	8	埼玉県	11.1	12	滋賀県	10.3		全国平均	9.6

指標 3 夫の家事・育児時間が多い
 TOP 3 は「島根県」「福井県」「山形県」

夫が普段、家事や育児をどのくらいの時間行うか、仕事のある勤務日と休日とで聞き、勤務日 5 日 + 休日 2 日として 1 週間の家事・育児時間を算出しました。その結果、夫の 1 週間の家事・育児時間が長いのは「島根県」18.21 時間、「福井県」14.00 時間、「山形県」13.59 時間の順でした [図 5]。

[図 5] 夫の家事・育児時間
 対象は男性 (n=4352)

順位	都道府県	家事・育児時間 / 週 (時間)	順位	都道府県	家事・育児時間 / 週 (時間)
1	島根県	18.21	25	北海道	12.01
2	福井県	14.00	26	岩手県	11.87
3	山形県	13.59	27	茨城県	11.74
4	鳥取県	13.50		福島県	11.74
5	岡山県	13.49	29	高知県	11.64
6	熊本県	13.22	30	群馬県	11.37
7	沖縄県	13.14	31	神奈川県	11.35
8	徳島県	13.13	32	愛媛県	11.18
9	兵庫県	12.99	33	静岡県	11.17
10	三重県	12.87	34	岐阜県	10.84
11	埼玉県	12.80	35	長野県	10.82
12	鹿児島県	12.69	36	千葉県	10.65
13	山口県	12.67	37	香川県	10.55
14	和歌山県	12.62	38	長崎県	10.10
15	佐賀県	12.55	39	大阪府	10.00
16	栃木県	12.52		愛知県	10.00
17	秋田県	12.41	41	滋賀県	9.94
18	宮崎県	12.39	42	京都府	9.15
19	新潟県	12.38	43	石川県	9.06
20	大分県	12.33	44	福岡県	9.05
21	宮城県	12.32	45	富山県	8.99
22	青森県	12.11	46	東京都	8.61
	山梨県	12.11	47	広島県	8.16
24	奈良県	12.08		全国平均	11.06

指標 4 **家事・育児に幸せを感じる夫**
TOP3は「群馬県」「福岡県」「宮城県」

夫に家事や育児を行うことに幸せを感じるか、「幸せを感じている」「やや幸せを感じている」「あまり幸せを感じていない」「幸せを感じていない」の4段階で答えてもらい、それぞれ+2点、+1点、-1点、-2点で点数化しました。その結果、家事・育児に幸せを感じる夫は、「群馬県」(1.13)、「福岡県」(1.09)、「宮城県」(1.07)の順となりました[図6]。

[図6] 家事・育児参加で幸せを感じる夫
対象は男性 (n=4352)

順位	県名	幸福度	順位	県名	幸福度
1位	群馬県	1.13	25位	大分県	0.87
2位	福岡県	1.09	26位	滋賀県	0.85
3位	宮城県	1.07		和歌山県	0.85
4位	島根県	1.06	28位	岡山県	0.84
5位	東京都	1.05		兵庫県	0.84
	熊本県	1.05	30位	福島県	0.82
7位	岐阜県	1.02		高知県	0.82
	山形県	1.02	32位	富山県	0.80
9位	山梨県	1.01	33位	愛媛県	0.79
10位	神奈川県	1.00	34位	新潟県	0.78
11位	鹿児島県	0.97		福井県	0.78
12位	千葉県	0.96	36位	埼玉県	0.77
	香川県	0.96	37位	鳥取県	0.76
	長野県	0.96		愛知県	0.76
	北海道	0.96	39位	奈良県	0.75
16位	茨城県	0.95		山口県	0.75
	佐賀県	0.95	41位	石川県	0.73
18位	静岡県	0.91	42位	三重県	0.72
19位	栃木県	0.90	43位	青森県	0.70
	大阪府	0.90		秋田県	0.70
	京都府	0.90	45位	岩手県	0.69
22位	宮崎県	0.89	46位	広島県	0.68
	沖縄県	0.89	47位	徳島県	0.66
24位	長崎県	0.88		全国平均	0.91

統計と県民性に見るイクメン力

イクメン力全国ランキングで、島根県、鳥取県と山陰地方の両県のイクメン力が高いという結果は、意外なようですが、統計データや県民性をひもといてみると納得感があります。

イクメン力1位の島根県は、育児をしている女性の有業率が81.2%と、全国1位(※1)。正規雇用の割合が多いことも特長で、多くの女性が出産後も働き続けます。島根県の県民性で見ると、女性は世話好きで活発な人が多く、仕事も家庭もバリバリこなすエネルギッシュな女性が多いようです。そんな島根県の女性を支える男性は、仕事は慎重にゆっくりコツコツ、というタイプの、落ち着いた雰囲気の人が多い。まわりの空気を読めるホスピタリティがあるので、家事・育児に向いているといえるかもしれません。イクメン白書によると、家事・育児の数も、かける時間も全国1位の島根県。妻からの評価も全国1位と高いですが、納得の結果です。実際、「自分の家庭の理想は、『夫が外で働き、妻は家庭を守ることだ』』と考える性別役割意識が、島根県は全国と比較しても低いことがわかっています(39.0%・低い順に全国5位)(※2)。

島根県と同じく、育児をしながら働く女性が多い鳥取県は、やはり女性主導の印象が強いエリアで、市区町村の管理職の女性割合が31.6%とダントツで全国1位(※3)。行政に女性の声がたくさん反映されることで、女性にとってやさしい、子育てしやすい環境が整備されているということも考えられますね。以前実施した「ケンミンまるごと大調査」(※4)では、鳥取県の女性は「自分の性格は厳しい」「倫理観のない人は嫌いだ」(全国1位)と答えており、「自分は優柔不断である」「人に付いて行くことが多い」(全国1位)鳥取県の男性と、キャラクターが対照的。一方で、協調性が高く、「仕事が忙しくても無理はしない」(全国1位)という鳥取県の男性は、妻を立て

ながら仕事と家庭のバランスを取る、家庭的なタイプが多いのではないのでしょうか。

2018年に発表された特殊合計出生率では島根県1.74(全国2位)、鳥取県1.61(全国9位)と、不動の沖縄県1.89(全国1位)と並んで高い結果が出ています(※5)。

実は、イクメン力が高い沖縄県の男性の県民性は、島根県の男性と似ている部分があります。いずれも協調性が高く、相手に合わせられる、気持ちの優しい男性が多い。島根県・沖縄県・鳥取県とも、結婚生活は相手主導がいいと考える傾向があります。働きたい女性を自然とサポートできるイクメンは、これからの夫の見本といえるかもしれません。

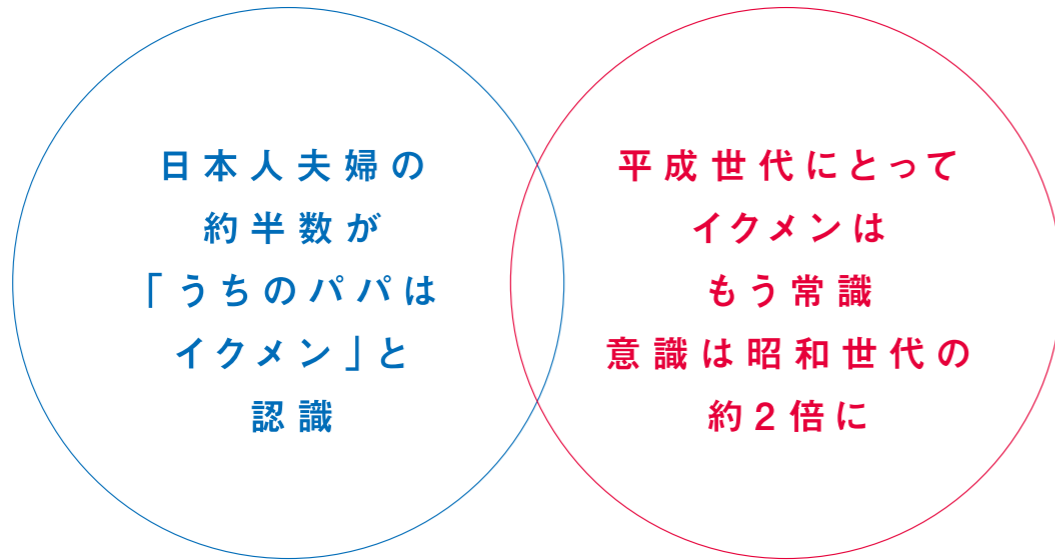


木原誠太郎

1979年生まれ、京都府出身。電通やミクシィでマーケティングを担当し、さまざまな企業のマーケティングコンサルティングに携わる。2013年、ディグラム・ラボ株式会社を設立。心理学 × 統計学で人間の本音を分析し、カウンセリングするプログラム「ディグラム」の研究を進めながら、同時に事業展開。「ホンマでっか!?TV」(フジテレビ系)、「スッキリ」(日本テレビ系)、「有吉ゼミ」(日本テレビ系)などテレビ出演多数。2019年、京都造形芸術大学の客員教授に就任。

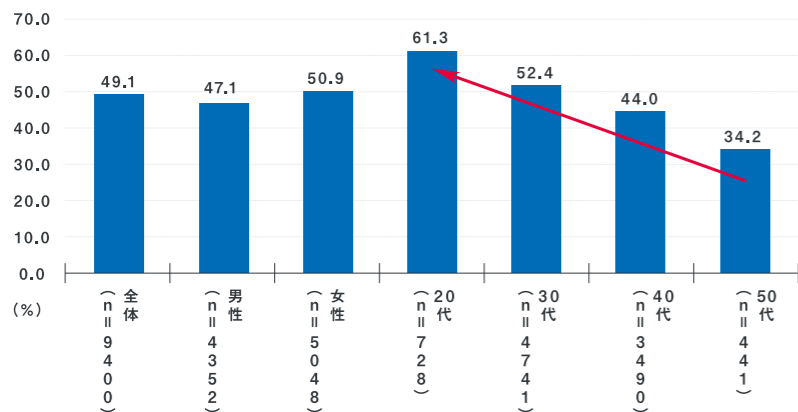
※1 総務省統計局「平成29年就業構造基本調査」
 ※2 内閣府男女共同参画局「地域における女性の活躍に関する意識調査」(平成27年)
 ※3 男女共同参画白書(平成27年「地域の活力を高める女性の活躍」内閣府男女共同参画局)
 ※4 「ケンミンまるごと大調査」(木原誠太郎+ディグラム・ラボ県民性研究会)
 ※5 厚生労働省「平成30年(2018)人口動態統計月報年計(概数)の概況」

イクメン意識の実態 *Part.01*



日本人のイクメン意識を探ると、男性の47.1%が「自分はイクメンだと思う」と答え、女性の50.9%が「夫はイクメンだと思う」と答えています。日本の夫婦の半数は「パパはイクメン」と自他共に認識しており、妻の方が夫よりも高くなっています。性・年代別に見ると、20代が61.3%とイクメン意識が最も高く、50代では34.2%と、3割台にとどまっています[図7]。昭和世代には定着しなかったイクメンですが、平成世代の子育て参加意識は確実に高まっているようです。

[図7] イクメン意識



「家族のために我慢」はイクメンの証し？

自称イクメンパパの約4割が家族のために我慢している

夫がイクメンと答えた妻に夫のイクメンポイントを聞くと、「子どもと一緒に遊ぶ」(75.1%)、「子どもをお風呂に入れる」(58.5%)、「妻の育児の不安や愚痴を聞く」(42.1%)がTOP3にあげられました。一方、イクメンを自認する夫に自身のイクメンポイントを聞くと、2位までは妻と同じですが、3位は「家族のために我慢をする」(43.8%)となり、イクメンを自認する男性の4割以上が、家族のために何らかの我慢をしています[図8]。忍耐が必要になることも多い育児と本気で向き合い、家族のために努力している父親の姿がうかがえます。

[図8] イクメンポイントTOP3

妻が思う夫のイクメンポイント (n=2568)



夫が思う自身のイクメンポイント (n=2049)



イクメン意識の実態 *Part.02*

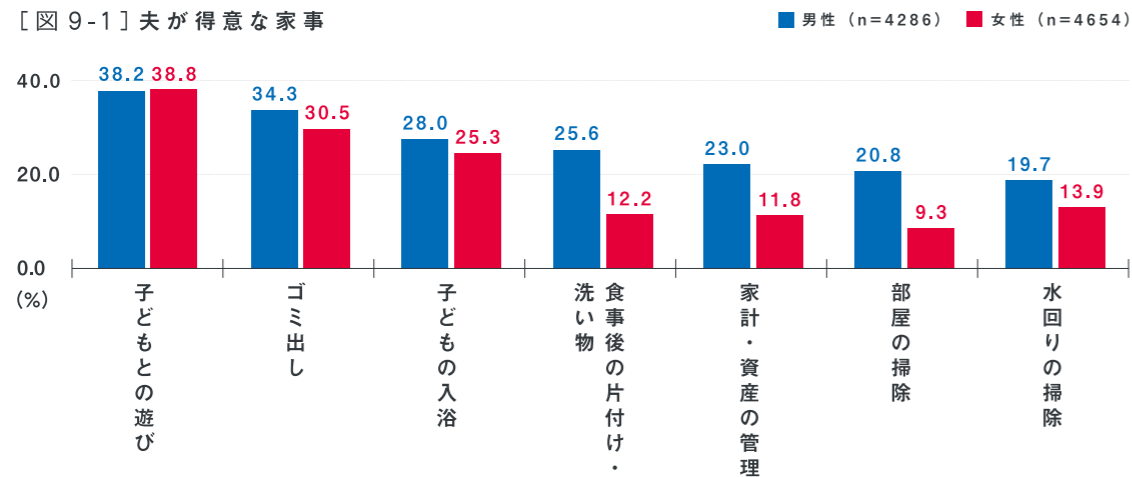
得意な家事は

「子どもと遊ぶ」「ゴミ出し」「子どもの入浴」。

パパ・ママ納得のイクメンパパの3大定番

夫が行う家事・育児の中で得意なものを聞くと、夫は「子どもとの遊び」(38.2%)、「ゴミ出し」(34.3%)、「子どもの入浴」(28.0%)がTOP3となりました。妻に夫が得意な家事・育児を聞くと、こちらも「子どもとの遊び」(38.8%)、「ゴミ出し」(30.5%)、「子どもの入浴」(25.3%)となり、夫婦の意見が一致しています。これらはイクメンパパの3大定番といえそうです[図9-1]。一方、「食事後の片付け・洗い物」(夫25.6%：妻12.2% 差13.4)、「部屋の掃除」(夫20.8%：妻9.3% 差11.5)、「家計・資産の管理」(夫23.0%：妻11.8% 差11.2)は夫はうまくやれているつもりでも、妻は納得していない3大ギャップ家事となっています[図9-2]。

[図9-1] 夫が得意な家事



[図9-2] 夫が得意な家事 夫と妻のギャップ

順位	家事・育児	夫 (n=4286) (%)	妻 (n=4654) (%)	ギャップ (%)
1位	食事後の片付け・洗い物	25.6	12.2	13.4
2位	部屋の掃除	20.8	9.3	11.5
3位	家計・資産(住宅ローンや投資など)の管理	23.0	11.8	11.2
	洗濯	15.4	6.3	9.1
	食料品・生活用品の買い物	14.8	8.0	6.8
	水回りの掃除(トイレ・お風呂・キッチンなど)	19.7	13.9	5.8
	子どもに勉強を教える、宿題の採点をする	11.9	7.0	4.9
	玄関やベランダなどの掃除	9.4	5.3	4.1

あなたも共感できる？

妻が夫に期待する

家事育児

- 食器を洗ったり部屋の掃除や片付けをたまにでいいので、「自分からする!」と進んでやってほしいなと思います (兵庫県 26歳)
- 子どもと2人だけで外に遊び行ってほしい。その間少しでいいからゆっくり寝たり、ゆっくりTVを見たり、自由にさせてほしい (佐賀県 28歳)
- 休みの日くらいはできる家事をしてほしい。ケータイばかり見てゲームをせずに子どもの話を聞いたり、遊んであげてほしい (鳥取県 30歳)
- 休日に子どもと思い切り遊んでほしいです。私じゃ力も体力も足りないので、父親にしかできないダイナミックな遊びをしてほしい (石川県 31歳)
- 保育園の迎えを週に1~2日してもらえたら助かる。毎日仕事の後お迎えに直行なので、代わってくれれば時間ができて精神的なゆとりが持てる (山口県 35歳)
- 食べ終わった食器に水を入れる。が、洗いはしない。など、そこまでやったなら最後までしてくれればなーと思うことが時々ある (富山県 37歳)
- とにかく子どもと遊んでくれればいい。子どもに楽しいことをたくさん教えたり見せたり体験させたりしてほしい (佐賀県 36歳)
- 急な発熱の時や、突発的な休みに対応するのはいつも私なので、男性側でも対応できるような職場環境であってほしい (茨城県 41歳)
- ゴミ出しはゴミ集めや新しいゴミ袋をセットするのをしてこそ「やった。」と言えるのに、本当にゴミ捨て場に出すだけで終わる (三重県 42歳)

育休取得の実態

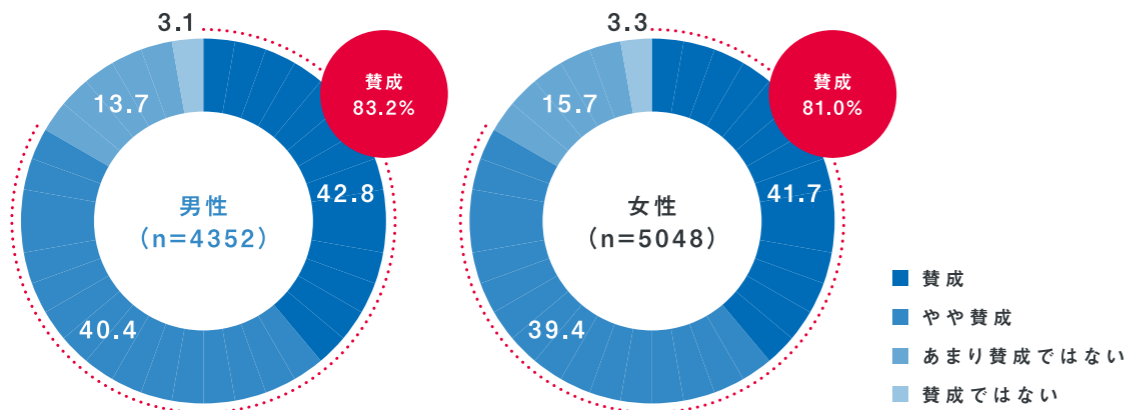
男性の育休制度に8割が賛成!

しかし、実際取得するとなると、そう簡単ではない

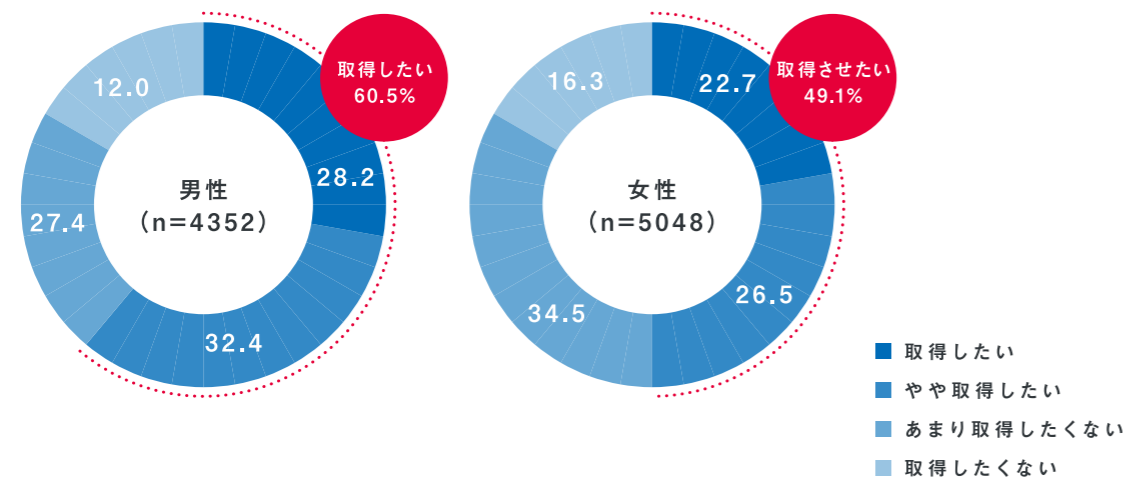
男性の育休制度について聞くと、男女ともに8割以上(男性83.2%、女性81.0%)が「賛成」しています[図10上段]。しかし、実際の育休取得となると、育休を「取得したい」と答えた男性は60.5%、「夫に育休を取得させたい」と答えた女性は49.1%と少なくなっています[図10下段]。育休を取りたくても取れない、それぞれの事情がうかがえます。

[図10] 男性の育休制度に対する意見

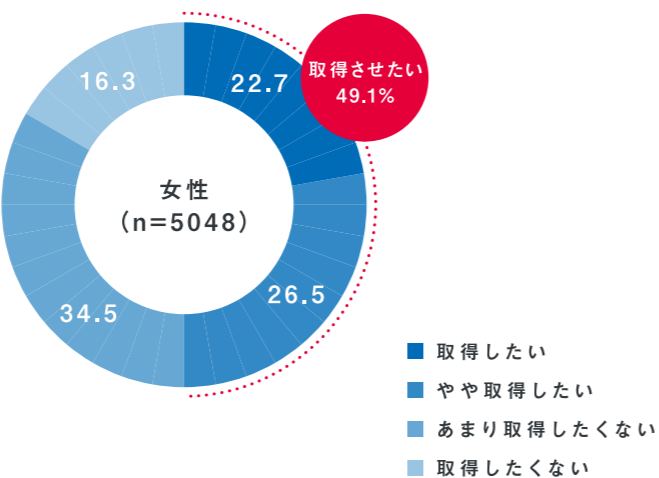
賛成かどうか



育休を取得したい



夫に育休を取得させたい



育休取得の実態

男性の育休取得者の8割近くが

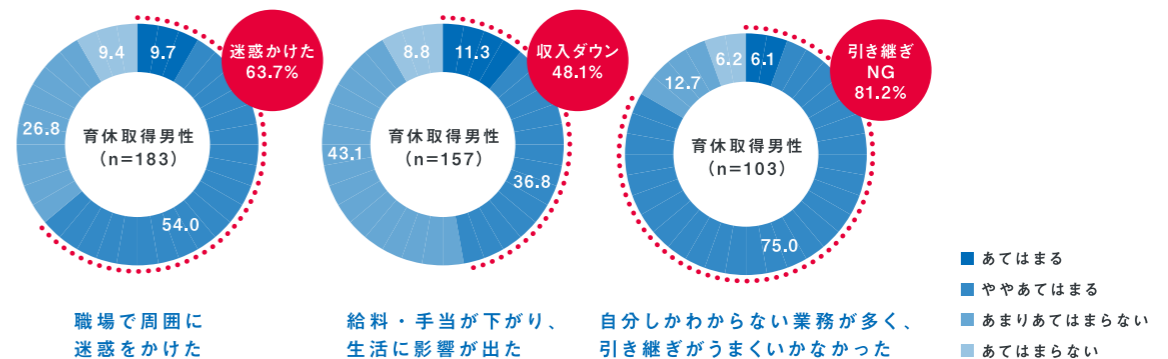
取得前に不安を感じている

育休を取得した男性484人に育休前に不安を感じていたことを聞くと、「職場で周囲に迷惑をかけてしまうのではないか」(37.8%)、「給料・手当が下がり、生活に影響が出るのではないか」(32.5%)、「自分しかわからない業務が多く、引き継ぎがうまくいかどうか」(21.3%)などが上位にあげられ、77.0%が「何らかの不安を感じた」と答えています[図11-1]。これらの不安を感じた人に実際はどうだったかと聞くと、「職場で周囲に迷惑をかけた」(63.7%)、「給料・手当が下がり、生活に影響が出た」(48.1%)、「自分しかわからない業務が多く、引き継ぎがうまくいかなかった」(81.2%)といった実態が浮き彫りになりました。[図11-2]。

[図11-1] 育休を取得した男性が、育休取得前に感じた不安



[図11-2] 育休取得前に感じた不安の実態 対象者は各項目で不安と答えた育休取得男性



男性の育休取得に対する意見

育休取得に賛成する理由



● 子どもが産まれる以前は育児に関わるのは母親だと思っていたが、産まれてからは現実に直面すると、父親、近親者のサポート無しでは育てて行くことが難しく、十分な環境も整えられないと感じた(男性 富山県 34歳)

● 夫婦共働きは現代では当たり前だと思うので、今までのような女性が家庭を預かるという考えでは古いと思う。得意不得意があると思うので、夫婦平等でお互いが得意なことをやればいいのではないかと思う(男性 大分県 41歳)

● これからは男性も積極的に育児をするべきだと考えます。しかし企業で働いている以上は企業の協力がないと実現は難しい。そこをどういうふうに変えていくかがこれからの問題ではないでしょうか(男性 山口県 43歳)

● 仕事も家庭も男女が対等・協働で取り組む社会にすることで、世の中の雰囲気をもっと良くしていければいい。結果的に所得も子どもも増え社会が明るくなるし、もっと他人に優しくなれる(男性 埼玉県 45歳)



● 産まれて3カ月間本当に大変だった。ご飯を食べる時間も眠る時間もお風呂にも入る時間さえも確保できなかった。精神的にもかなり限界で今思うと産後鬱、育児ノイローゼだったと思う。大人が1人家にいただけで負担は全く違う。

なので賛成する(女性 東京都 25歳)

● 子どもの成長を妻から聞くのではなく、夫もその瞬間を目にした方がうれしいと思う。育児休暇を取ることで、父親としての自覚や責任が芽生え、育児の大変さも理解してもらえる(女性 岐阜県 31歳)

● 妻は出産したからといって直ぐに立派な母親にはなれません。育児は妻も夫も同じで初心者なのです。2人の子どもなので、協力できる環境がすごく大切だと思います。育休を取得した男性は出世できない、左遷されるなんて、時代遅れです(女性 山口県 34歳)

● 子どもが小さいうちは生活が思うようにならず、母親もクタクタ。母親の代わりに買い物行くのもよし、母親を1人にさせるのもよし、とにかく育児と家事を両方こなすのが大変なので、男も育児休暇を取るべき。日にちは短くても単発でもいい。小さい子どもがいると母親は自分の病院にもいけない(女性 宮城県 44歳)

育休取得に賛成しない理由



● 男が育児をすることに関しては非常に賛成ですが、仕事量の多さ、その仕事量で他の人に務まらない現状、例え務まったとしてもそのしわ寄せで会社や社員に迷惑がかかること間違いないから。復帰した時にみんながどう思っているのか

怖い(男性 岡山県 31歳)

● 育休を取りたくても取れない現状と、もし仮に取ったとしても現場復帰にはとても不安を感じる。日本の風潮からして取りづらいという表現が一番かと思います(男性 宮崎県 32歳)

● 私の考えが古いのは承知の上で、やはり得意、不得意もあれば、男は外で稼いで女は家を守るという概念がある(男性 熊本県 34歳)

● 大・中企業のように従業員が多ければ取得可能かもしれないが、10人未満の事業所では育児休業を取得されると、仕事が滞り、会社や従業員同士への負担が大きいため、実質的に取得は不可能(男性 和歌山県 39歳)



● 一日中家事・育児をするわけでもないのに、休みではなく就業時間の短縮や、続けての休みではなく会社にも双方負担にならない休み方が望ましいのかなど(女性 広島県 50歳)

● 勤め先に迷惑がかからないことは、ないと思います。夫と話したことがあります、実際に女性でも取りにくい育児休業をたとえ権利だとしても、同僚や上司の目を考えたりすると無理だという話になりました。誰かが休暇を取っても他の人にずっと負担がいかないようなシステムは今の景気や世の中の状況では実際は許されにくいと思います(女性 徳島県 39歳)

● 男性のタイプによると思う。育児休暇の意味を理解して動いてくれるなら賛成だが、それ以外だと、むしろいない方がよい。子どもも母親も生活リズムをつくることや自分のことで精一杯なため、そのことに専念したく、必要以上に余計な家事を増やしたくない(女性 富山県 40歳)

● 育休で給料が減ったり、休んでる間に顧客が離れたり、取引先の担当者が変わったりと、地味な変化や時代の流れについて行けなくなると、仕事が振り出しに戻る感覚がある。家事が好きな旦那さんならいいが、そうでなく、好きな & 好きで仕事をしている人には育休は妨げになる場合もあると思う。(女性 青森県 42歳)

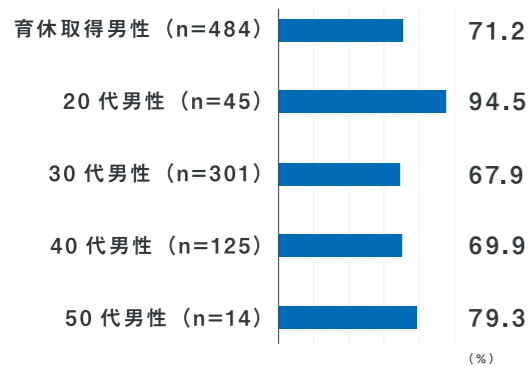
● 職場によるかもしれないが、実際には男性は取得しにくい。長期取得後は、居場所がなくなる可能性もある。育休を取っている間はその分所得が下がるので、男性は仕事をして収入を得てほしい。母親が育休を取って、育児をする方がいいと思う(女性 高知県 42歳)

育休を取得した夫の意見

不安を感じる育休制度だが、 思いきって利用してみると、満足度は高い

育休の取得にはそれぞれの事情もあるようですが、育休を取得した男性の71.2%が育休制度に対して「満足した」と答えており、20代男性では94.5%と満足度が一層高くなっています[図12]。さらに育休を取得したことで、「妻の負担を理解できるようになった」(26.5%)、「子どもがいる社内の方へより配慮するようになった」(19.1%)など、意識の変化を実感したイクメンパパも少なくありません[図13]。また、育休取得に対する職場の協力体制を聞くと、68.7%が「協力的だった」と答えています[図14]。

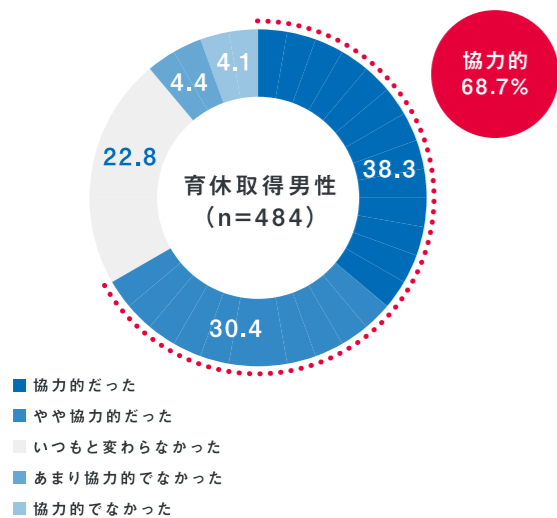
[図12] 育休制度に対する満足度



[図13] 育休取得後に感じた変化

妻の負担を理解できるようになった	26.5
子どもがいる社内の方へより配慮するようになった	19.1
子どもと一緒に遊ぶようになった	17.8
自分(夫)の親心が育った	16.1
積極的に育児を手伝うようになった	15.8
早く家に帰ってくるようになった	15.5
積極的に家事を手伝うようになった	14.5
社内の人に育児休業の取得を勧めるようになった	14.1
夫婦関係が良好になった	13.1
コミュニケーション力が上がった	12.6

[図14] 育休取得に対する職場の協力体制



対象は育休取得男性484人

育休を取得した夫に「おもしろさ」と「大変さ」、夫が育休を取得した妻に「よかったこと」と「残念だったこと」についてそれぞれ率直な意見を聞いてみました。育児を体験したからこそその喜びと大変さは、子どもと一緒に自分の成長も味わえるようです。

育休取得中の育児や家事に対する感想

おもしろかったこと
育休取得した男性の意見

- 子どもの新たな発見(三重県 36歳)
- 無邪気な子どもの行動(群馬県 37歳)
- のんびり過ごす中で子どもの成長を間近に見ることができた(佐賀県 38歳)
- こちらの顔を見ると常に笑ってくれる(京都府 39歳)
- 自分も父親と同じような言動をするようになったこと(福島県 42歳)
- 日に日に成長して姿が変わっていく子どもを見ていられた(埼玉県 45歳)

大変だったこと
育休取得した男性の意見

- ▲ 育児以外に庭の整備もしたこと(福島県 30歳)
- ▲ 育児が予想以上にきつかった(三重県 36歳)
- ▲ 妻のイライラ(群馬県 37歳)
- ▲ 毎日の料理メニューを考えること(佐賀県 38歳)
- ▲ 夜泣きが大変だ(京都府 39歳)
- ▲ 子どものミルクの世話。慣れにより量を忘れそうになる(埼玉県 45歳)

よかったこと
夫が育休取得した女性の意見

- 出産前後を一緒に過ごせた(北海道 23歳)
- 手続きなどを全部行ってくれた(埼玉県 28歳)
- 子どもを任せて1人で出かけられた(山口県 28歳)
- 産後のしんどい時期に手伝ってくれたのは助かった(京都府 30歳)
- 首がすわるまでの入浴を1人でしなくてすんだこと(高知県 39歳)
- 子どもとコミュニケーションがとれお互いに生活リズムが作れた(熊本県 43歳)

残念だったこと
夫が育休取得した女性の意見

- ▲ 取得日数が少なかった(北海道 23歳)
- ▲ タイミングが合わず、断乳の時に取得できなかったこと(山口県 28歳)
- ▲ 取るのであれば、もう少し長い期間取ってほしかった(京都府 30歳)
- ▲ 給料が7割だった(福岡県 32歳)
- ▲ 自分のための長期休暇のように考え振る舞っていた(高知県 39歳)
- ▲ 夫の世話もしないといけないので、余計に手間がかかる(兵庫県 41歳)

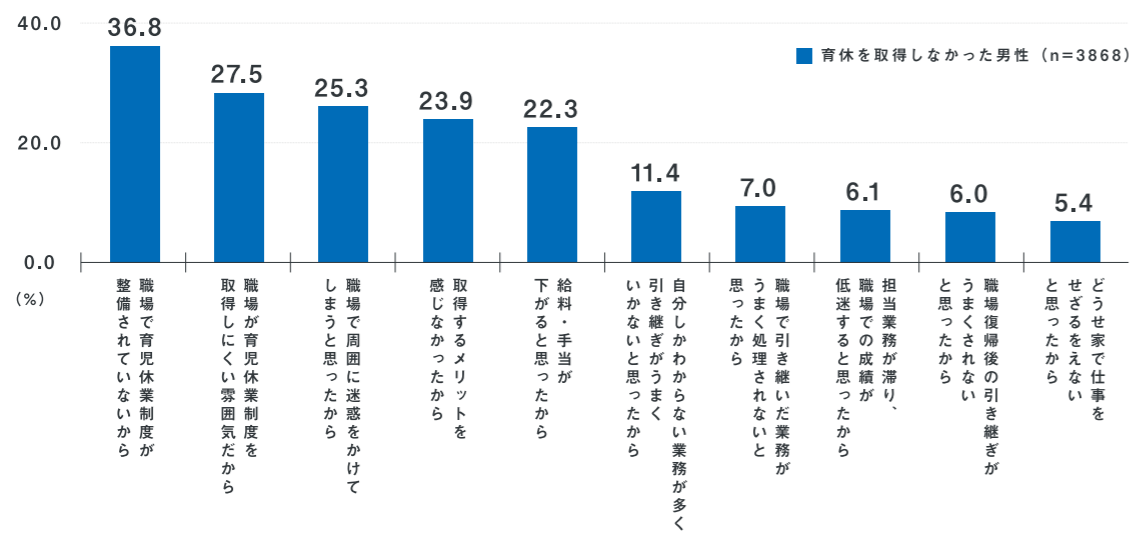
育休を取得しなかった夫の意見

育休を取らない理由、

「育休制度がない」企業がまだ4割も

次に育休を取得しなかった男性3868人に、取得しなかった理由を聞きました。「職場で育児休業制度が整備されていないから」(36.8%)が最も多く、育休制度のない企業が4割近くもありました。次いで、「職場が育児休業制度を取得しにくい雰囲気だから」(27.5%)、「職場で周囲に迷惑をかけてしまうと思ったから」(25.3%)、「取得するメリットを感じなかったから」(23.9%)、「給料・手当が下がるといったから」(22.3%)の順となっています[図15]。男性の育休の取得には、職場の環境に大きく左右され、組織としての取り組みが不可欠となるようです。

[図15] 育休を取らなかった理由



日本の育休制度の実態

イクメン世代なのに関心がない!?

4人に3人は自分の会社育休制度について「知らない」

組織としての取り組みが不可欠な育休取得ですが、自身の勤務先の育休制度の実態はどうなっているのか聞いてみました。男性には自身の会社、女性には夫の会社の育休制度について聞くと、「育休取得日数」を知っているのは男性24.5%、女性10.7%、

「育休中の給料や手当」については男性25.9%、女性13.5%、「育休対象の子どもの年齢」については男性26.2%、女性14.1%となりました。いずれも男性の方が認知度は高くなっていますが、それでも2割台にとどまり、イクメン世代でありながらも7割以上が、自分の勤める会社の育休制度について「知らない」のが実態です[図16]。ちなみに、育休対象の子どもの年齢を知っていると答えた1853人にその年齢を聞くと、「1歳未満」(38.6%)が3分の1を占めています[図17]。

男性の育休取得推進に欠かせないのは、

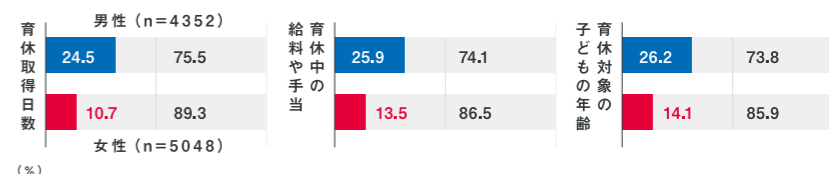
「給料維持」「仕事の調整」「職場の理解」

最後に、どうすれば男性の育休取得が増えると思うか聞いたところ、「育児休業中の給料・手当が変わらない」(88.8%)が最多で、「育児休業後も業務の調整がつく」(86.5%)、「直属の上長が理解・サポートしてくれている」(84.6%)、「所属している部署の方々理解・サポートしてくれている」(84.3%)などが上位にあげられました。これから育児が本格化する子育て世代の20代と、育児から開放される卒育世代の50代を比較すると、いずれも20代の方が意識が高くなっています[図18]。

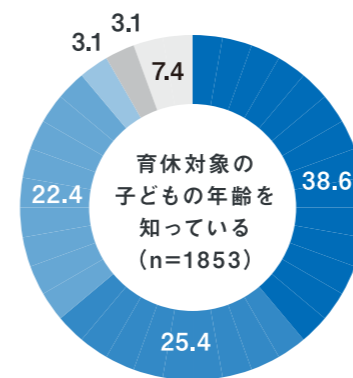
[図16]

会社(男性は自分の会社、女性は夫の会社)の育休制度認知度

■ 知っている ■ 知らない

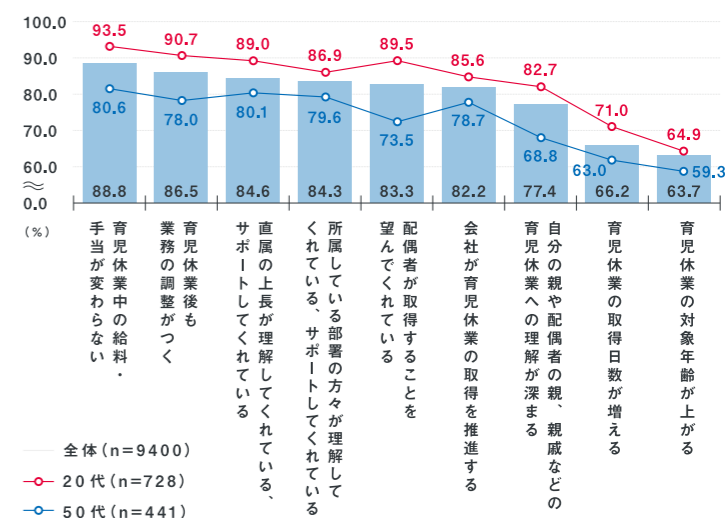


[図17] 育休対象となる子どもの年齢



■ 1歳未満 ■ 4歳未満
■ 2歳未満 ■ 5歳未満
■ 3歳未満 ■ 6歳未満

[図18] 男性の育休取得推進に必要なこと



私の勤め先の育休制度！ 北から南、 全国の育休への取り組み内容

- 子どもが生まれると、上司から育児休暇の取得の希望を聞かれるような環境（北海道 女性 31歳）
- 子の妊娠がわかり次第、育児休業に係る資料が配られ、幹部から育児休業に係る教養を受ける（青森県 男性 26歳）
- 所属部署は9割が子どもがいて同じ立場で取得しやすい。仕事の穴埋めにも協力してもらい、気持ち良く育児休暇できる（秋田県 男性 26歳）
- 育休制度はないが、小さな子どもを会社に連れて行き、同僚に事務所で交代で見てもらいながら仕事することも可能（福島県 男性 39歳）
- 育児休業を取得した男性の紹介や、実際に取得した感想などを掲載した社内報をイントラに掲載している（富山県 男性 34歳）
- 上司が育児休業の説明をし、取らせるようにしている（福井県 男性 47歳）
- イクメンパパ休暇という制度があり、積極的に休暇を取られる（静岡県 女性 45歳）
- 育児休暇に限らず、社員が取ることのできる休暇について、会社から説明があり、育児休暇の対象となる社員にはその説明がいく（愛知県 男性 45歳）
- 男性職員同士での育休を取ることへの促しがある（京都府 男性 32歳）
- 自宅勤務の体制をスタート。休暇まではしてませんが、自宅に会社のパソコンを持ち込んでビデオ会議で作業をする（兵庫県 男性 41歳）
- ダイバーシティを推進しており、組織的に推進活動をしている（岡山県 男性 43歳）
- 男性の育休取得について就業規則に追加した（高知県 女性 33歳）
- イクボス研修、子育てガイドブックの配布（福岡県 男性 43歳）
- 定期的にジェンダー会議が開かれ、育児に関して男女問わず議論がされ、全社員に共有されている（大分県 男性 49歳）
- 上司自身が積極的に取得し、取得をしやすい雰囲気作り（宮崎県 男性 48歳）
- 1人の休暇スタッフの仕事のフォロー体制が円滑に行くように、常日頃から会議などの話題にあげる努力をしている（鹿児島県 男性 35歳）

イクメン白書で 浮かび上がる今どきの 「イクメン」

調査結果を見て一番驚いたのは、トップ3県の男性の家事育児時間が長いことです。1位の島根県は週18時間強、2位の沖縄県、3位の鳥取県ともに13時間強となっています。単純に割り算すると島根県の父親は1日2時間半以上、沖縄県と鳥取県の父親も1日2時間近く家事育児をしています。

これは、日本の男性が他の先進諸国の男性と比べて家事育児をしない、とされる常識に反する調査結果です。内閣府の男女共同参画白書には、6歳未満の子どもを持つ父親と母親の家事育児関連時間の国際比較が紹介されています。それによると、日本男性の家事育児関連時間は1日1時間23分で他の先進諸国と比べ目立って少ないです。

一方で、日本国内でも県別に見れば、他の先進諸国の父親と並ぶくらい家事育児をしている父親がいることが明らかになりました。例えば、島根県の小学生以下の子どもを持つ父親の家事育児時間は、フランスの6歳未満の子どもを持つ父親と同じくらいなのです。

もうひとつ重要なのは、イクメン度が高い父親は「家族のために我慢をしている」ことです。子育ては人生の大きな喜びであると同時に、忍耐が必要な場面も少なくありません。これまで、母親が育児のために我慢するのは当然視されてきましたが、父親も本気で育児に関わる人は我慢をしていることが明らかになりました。

これまで「イクメン」には、育児を楽しむ父親という肯定的なイメージと、育児を楽しむが大変な部分は妻任せという否定的なイメージの両方がありました。イクメン白書で浮かび上がる今どきの「イクメン」は、日本男性の平均を大きく超え、欧州男性並みに家事育児をしつつ、自分自身より厳しい評価をしがちな配偶者からも高い評価を受けています。

また、多くの母親と同じように、育児の楽しい部分も大変な部分も共に引き受ける責任ある父親像も浮かび上がってきました。

男性育休完全取得という日本社会にとって革

命的な施策を静かに着実に実行している企業が、こうした調査を発信する意義は大きいです。調査の結果からは、多くの男性が育休を取得したいと思っていること、職場に関する不安から実現できていないことがわかります。また、取得前の不安に対して、取得後の満足が対比されていることも目立ちます。つまり、取得前に感じている不安を払拭できるような工夫があれば、より多くの父親が育休を取得し、満足感を覚えその後の家事育児参加につながる可能性があります。

調査から、妻たちの性別役割意識の強さも見て取れます。多くの妻が男性育休という社会の変化には賛成している一方、自分の夫が取得することについては、慎重になっているようです。その理由は職場に迷惑がかかること。この心配を払しょくするには、男性の職場が変わることがやはりとても重要です。

1カ月育休を取得した父親たちは、ロールモデルとなり、家庭のみならず地域にも影響を与えることでしょう。保育園、幼稚園そして小学校で他の保護者に自分の体験を話してほしいと思います。

それにより「自分もやってみよう」と考える男性や「自分の夫にも勧めよう」と考える女性が増えてくるでしょう。既に北から南まで、さまざまな企業が男性育休に取り組んでいることが分かったのも白書の大きな成果です。

日本全体を変える大きな可能性を持つ男性育休の完全取得、今後、起きることを期待して見守りたいと思います。



治部れんげ

ジャーナリスト、東洋経済オンライン、Yahoo!ニュース、Business Insider等に執筆、政府主催の国際女性会議 WAW! アドバイザー、豊島区男女共同参画推進会議会長、財団法人ジョイセフ理事、一般財団法人女性労働協会評議員、昭和女子大研究員、東大情報学環客員研究員、Fulbrighter(2006-07)

積水ハウスの「イクメン休業」を取得した男性社員とその妻に聞く

積水ハウスの「イクメン休業白書」

3歳未満の子どもがいる全男性社員を対象に、
育児休業1カ月以上の完全取得を目指す
積水ハウスの「イクメン休業」

積水ハウス株式会社は、子育てを応援する社会を先導する「キッズ・ファースト企業」として、ダイバーシティ推進の取り組みを一層加速させるため、2018年9月より「男性社員1カ月以上の育児休業（イクメン休業）完全取得」を推進しています。これは、3歳未満の子どもを持つすべての男性社員が対象となり、子どもの誕生から3歳に達する日の前日までに1カ月以上の育児休業を取得するもので、最初の1カ月は有給とし、業務との調整を図りやすいよう、最大で4分割での取得も可能としています。

2018年9月の制度運用開始から1年経過後の2019年8月末時点で、取得対象男性社員1567人中、取得申請者は1163人、うち取得開始者は1113人となりました。また、2019年8月からは、グループ会社でも「イクメン休業」の運用を開始しています。

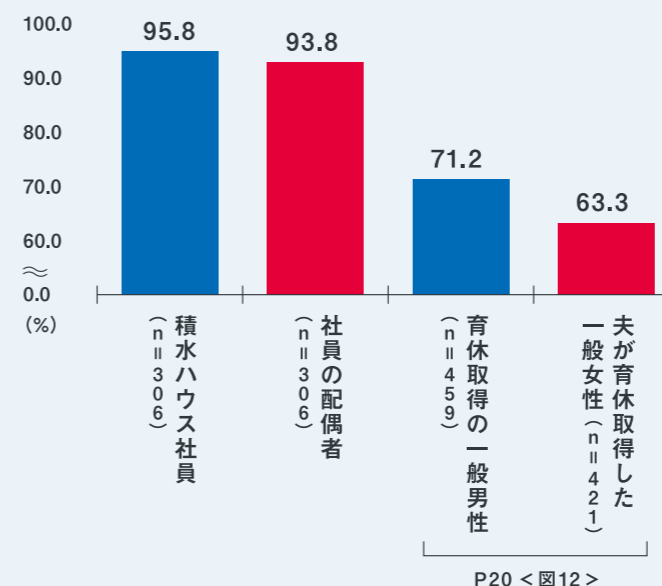
「イクメン休業」の満足度は、
社員もその配偶者も9割超え
31日の育休も「ちょうどいい」が過半数を占めるが、
夫側と妻側で感じ方の違いも

これまでにイクメン休業を取得した男性社員とその配偶者を対象としたアンケート調査を行いました。イクメン休業の評価を聞くと、取得した男性社員の95.8%、配偶者の93.8%が「満足した」と答え[図①]、育休取得に対する組織としての協力体制については、取得した男性社員の91.5%が「協力的」と答えています[図②]。

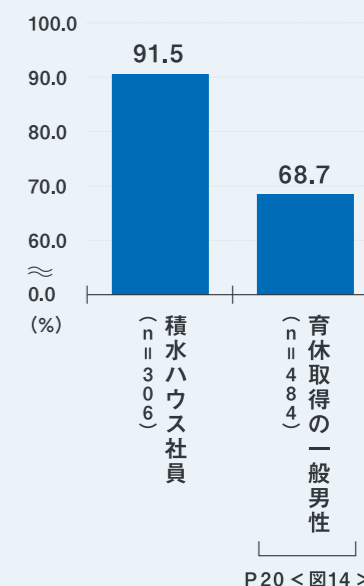
今回の調査結果では、育休を取得した男性の制度への満足度は71.2%（p20[図12]参照）、職場の協力体制が「協力的だった」のは68.7%（p20[図14]参照）となり、当社のイクメン休業は本人の満足度も高く、さらに組織としての協力体制がとれていたと感じる社員が多いことがわかりました。

また、休業期間1カ月（31日）という長さについては、社員も配偶者も「ちょうど良かった」（社員60.1%、配偶者54.2%）が半数を占めていますが、社員の4人に1人は「長い」（25.8%）、配偶者の3人に1人は「短い」（33.0%）と答えており、夫側と妻側で感じ方の違いもうかがえました。[図③]。

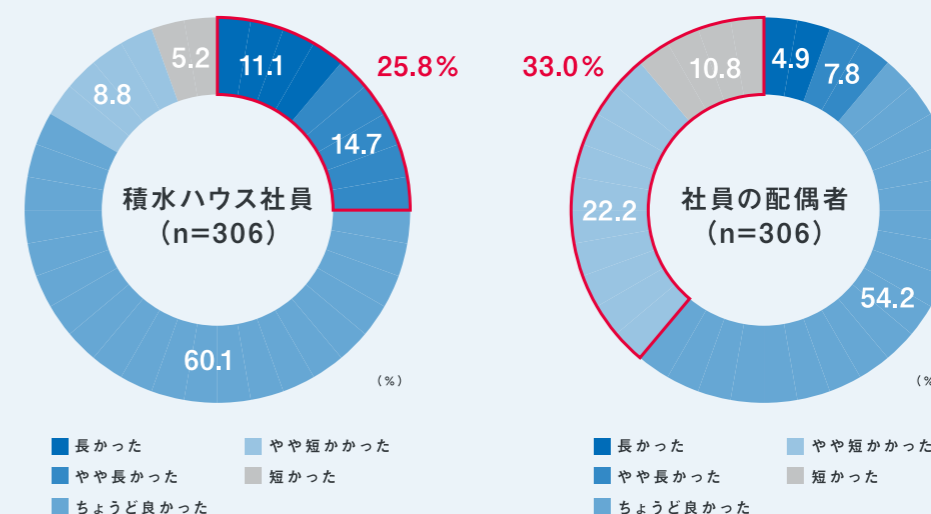
[図①] 「イクメン休業」の満足度



[図②] 「イクメン休業」に対する組織の協力体制



[図③] 有給31日間の「イクメン休業」の期間



調査概要

- 実施時期 2019年8月
- 調査手法 インターネット調査
- 調査対象 積水ハウス社員で2019年7月末時点で「イクメン休業」31日間取得完了している男性社員とその配偶者
- 回答者 306人

*構成比 (%) は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%にならない場合があります。



積水ハウス株式会社

本社 / 〒531-0076 大阪市北区大淀中1丁目1番88号 梅田スカイビル
www.sekisuihouse.co.jp

